

## 意見書

再意見提出者	西日本放送株式会社
--------	-----------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望（2015 年ごろや 2020 年ごろのワイヤレスブロードバンドのサービスイメージ、システムイメージなど）	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題（周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備）	
(3) 関連する国内外の動向と課題	
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	<p>当社は、800MHz 帯 FPU をその特性から、選挙中継・街中からの中継・ゴルフ中継・ロードレース中継等数多くの番組で利用している。ロードレース中継は系列での協力を含めて年間 3 回の運用実績がある。とくに当社では、長年、中学生から参加する郡市対抗の駅伝競走を 800MHz 帯 FPU の周波数特性を生かして移動中継を行っている。テレビ中継を行うことで県民の関心が高まり、県下最大のスポーツイベントとして定着し、ここから全国レベルの選手が多く育つなど地域に対しても大きな貢献をしている。また今世紀前半にも南海地震が発生する確率が高いと言われており、800MHz 帯 FPU の見通し外伝送や中継点を多く必要としない特性は、他の周波数帯では実現できないものであり、地域住民の安心・安全の為の報道に必要な不可欠のものである。以上のことから電波の利用については、利用頻度や経済性だけで論じるものであってはならない。</p>

複数のサービスやシステムについてご回答される場合は、それぞれ別々のフォーマットに記入してください（できるだけイメージ図等を加えてください。）。

## 意見募集において寄せられた意見に対する意見

No.	意見提出者	寄せられた意見に対する意見内容
複数	「地デジ帯域はさらにリ	地上デジタル放送用周波数帯域をさらに縮小すべきとの意見

	<p>パックすべき」という意見 に対して</p>	<p>もある。チャンネルリパックは「全国地上デジタル放送推進協議会」が中心になり、長期の技術検討を重ねて算定制度化されたものである。しかし、この案をもっても、現在、遠距離の同一チャンネルのデジタル放送局で混信妨害が報告されており、親局のチャンネル変更を行う等厳しいチャンネルのやりくりをしている。このような状況下、さらにチャンネルを削減することは、極めて困難であると考ええる。また、チャンネルのさらなるリパックは、視聴者への負担や影響が大きく、国民からの信頼にも影響すると言わざるを得ない。</p>
--	------------------------------	---